

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2020.2 No.81



－ 特集 －

- 1 頁：「小学校における外国語の教科化について」 石川県教育委員会事務局教育次長兼学校指導課長 塩田 憲司 氏
2・3頁：「国立工芸館の開館に向けて」 石川県企画振興部企画課長 竹内 陽一 氏
4・5頁：インタビュー 「人」 山中漆器・木地師 山田 マコ 氏

「小学校における外国語の教科化について」

石川県教育委員会事務局教育次長兼学校指導課長 塩田 憲司



近年、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化など、社会が急速に変化して、複雑化しており、子供たちには確かな学力とともに、自分の将来をたくましく切り拓いていく力を身に付けることが、これまで以上に求められています。

こうした状況を踏まえ、新学習指導要領では、これまで学校で育成してきた「生きる力」を改めて捉え直し、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」等を明確にしました。さらに、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。

今回の改訂の一つに、外国語教育の充実があります。小学校の中学年では、新たに年間35時間の外国語活動の導入、高学年では、これまでの年間35時間の外国語活動から年間70時間の教科としての外国語科が導入されました。

また、中学年の外国語活動では、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて、外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めること、高学年では、発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うことで、中学校への接続を図っていきます。

こうした中、本県では、新学習指導要領への円滑な移行に向け、平成29年度から「英語教育強化拠

点地域事業」を実施しています。6つの強化拠点地域を設け、小学校2校、中学校1校を拠点校として指定し、小学校段階における外国語教育の早期化・教科化や授業時数の増加に伴う指導や評価の在り方、また、小学校における教育課程の改善を踏まえた中学校の内容の高度化や指導及び評価の改善についての実践研究を行ってきました。

具体的には、拠点校の授業では、「ゲーム」や「歌」などの英語に慣れ親しませる活動や、「スピーチ」や「インタビュー」などの英語で自分の考えや気持ちを伝え合う活動を通じて、児童生徒の学習意欲を高め、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養ってきました。

また、公開授業や研究発表会、効果的な実践例の教員専用Webサイトへの掲載等を通して、県内全ての小・中学校に実践研究の成果を普及させ、各学校での取組の充実を図っています。

さらに、今年度は新たに、金沢大学と連携した取組を実施しており、金沢大学の教授が実際の授業を見て、指導法や評価法の改善に向けた指導・助言を行ったり、小・中学校教員を対象とした英語フォーラムを開催したり、金沢大学の留学生が授業に参加して、児童生徒と直接英語でやり取りすることで、児童生徒のコミュニケーション能力を高める機会を設けたりしています。

現在、各学校においては、校内研修等を通して、外国語教育の充実の趣旨等を再確認するとともに、新学習指導要領の全面実施に向けて、怠りなく入念な準備を進めており、今後も、小学校の英語教育の更なる充実・強化に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

国立工芸館の開館に向けて

石川県企画振興部企画課長 竹内 陽一



国立工芸館（正式名称：東京国立近代美術館工芸館）は、国の登録有形文化財である旧陸軍の第九師団司令部庁舎と金沢偕行社を移築・活用し、県立美術館といしかわ赤れんがミュージアムとの敷地に石川県と金沢市が協力して整備を進めています。

展示室や収蔵庫が作品を扱うために適正な環境となるまでの、いわゆる「からし期間」を経て、東京オリンピック開催前の開館を目指しています。

展示室や収蔵庫が作品を扱うために適正な環境となるまでの、いわゆる「からし期間」を経て、東京オリンピック開催前の開館を目指しています。



国立工芸館完成イメージ

1. 東京国立近代美術館工芸館

東京国立近代美術館工芸館は、工芸を専門とする唯一の国立美術館であり、日本で最初の国立



東京国立近代美術館工芸館
(東京都千代田区北の丸公園)

美術館である東京国立近代美術館の分館として、近現代の工芸及びデザイン作品を全般にわたって幅広く収集し、展示紹介しています。

2. 政府関係機関の地方移転

国の地方創生施策の一環で政府関係機関の地方移転の募集があり、県では「工芸王国・石川」とも呼ばれる本県の強みを活かし、東京国立近代美術館工芸館の移転を国に対して提案しました。

その結果、これが認められ、2016（平成28）

年3月に移転が決定し、これにより日本海側初の国立美術館が誕生することとなりました。

3. 移転作品等

移転作品については、現工芸館が所蔵する人間国宝及び日本芸術院会員の全ての作品（約1,400点）をはじめ、日本の工芸の歴史を語るうえで欠かせない美術工芸作品約1,900点以上が移転します。

移転後の工芸館では、本県出身の工芸界の巨匠・松田権六氏の工房を、東京都内の自宅から移設し、その足跡を紹介するコーナーを設ける予定です。

松田氏が使用していた道具類を展示するほか、映像も活用しながら松田氏の業績を紹介することとしています。

4. 国立工芸館の建物

建物は、旧陸軍の第九師団司令部庁舎と金沢偕行社の過去に撤去された部分がかつての姿に復元した上で、美術館仕様の建物として整備しています。

① 第九師団司令部庁舎・金沢偕行社の移築・活用
まず、第九師団司令部庁舎は、旧陸軍の師団司令部の執務室として、1898（明治31）年に金沢城二ノ丸跡地に建設されました。戦後は金沢大学の本部として使用された後、1968（昭和43）年に県が建物を購入し、県立能楽堂の横の敷地に移築しました。その際、建物の両翼が半分に切り詰められ、県の公社の事務所や歴史博物館の収蔵庫として使用されてきました。

次に、金沢偕行社は、旧陸軍将校の社交場として、1909（明治42）年に県立能楽堂の横に建設されました。戦後は財務局や国税局として使用された後、1967（昭和42）年に県が建物を購入し、その後、敷地内で曳家しました。その際、建物後

方の講堂部分が解体撤去され、第九師団司令部庁舎と同じく、県の公社や歴史博物館の収蔵庫等として使用されてきました。

解体作業を進める中で、2つの建物の窓枠などの外観の色が、移築前と明治期の建設当時とは異なっていることが判明しました。

具体的には、第九師団司令部庁舎について、移築前は薄桃色の窓枠などは、建設当時はこげ茶色、移築前はクリーム色の外壁は、当時は白色であったことが判明しました。

<第九師団司令部庁舎>



移築前



復元後

一方、金沢偕行社について、移築前は灰色の窓枠などは、当時は緑色であったことが判明しました。

<金沢偕行社>



移築前



復元後

そこで、文化庁と協議の上、過去に撤去された部分の復元に合わせて、外観の色についても建設当時の姿を再現することとしました。

② 建物の整備概要

建物は、第九師団司令部庁舎を向かって左側に、金沢偕行社を右側に配置し、2つの建物を渡り廊下でつなぎ、バリアフリー対応の出入口を設けました。

建物の内部については、第九師団司令部庁舎に工芸関連の図書を閲覧できるライブラリーやミュージアムショップを設置しました。階段は重厚なけやき造りで、天井には漆喰のレリーフがあらわれています。展示エリアは面積を現工芸館

に比べ1割増やし、展示区画も2区画から3区画に拡充することで、常設展や企画展などを柔軟に開催できるようにしました。

また、金沢偕行社には、体験イベントなどに活用できる多目的スペースを新たに設け、内装は格子状の天井や漆喰の壁などを復元しました。

建物内部の様子



第九師団司令部庁舎
けやき造りの階段



金沢偕行社
多目的スペース

5. 開館に向けた気運醸成

昨年11月23日から10日間、建物見学ツアーを開催し、明治期の洋風建築の意匠の紹介やバーチャルリアリティ（VR）映像による人間国宝等の移転作品の解説を実施しました。1,000名の定員



見学ツアーの様子

員に対して5倍を超える応募があり、開館に対する県民の期待と関心の高さがうかがえます。

6. 終わりに

国立工芸館の開館は、「工芸王国・石川」の文化の土壌に更なる厚みを加えるのみならず、都市としての品格を上げることにもつながるものと考えています。

日本海側初の国立美術館にふさわしい施設となるよう、開館に向けて、引き続き、独立行政法人国立美術館や金沢市と連携し、開館の際には、多くの皆さまに足をお運びいただけるよう、しっかりと準備を進めてまいります。



山中漆器・木地師 山田 マコさん

加賀市出身。安土桃山時代からの歴史を誇る山中漆器の産地に生まれ育った。漆の魅力に取り憑かれ職人となり、山中漆器初の女性木地師となった。木地の美しさが際立つ山中漆器の伝統を継承しつつも若い感性と現代的なセンスで普段から使用できる工芸品の製作に取り組んでいる。2001年日本漆芸展初入選、2002年石川伝統工芸展初入選・女流美展初入選。

インタビュアー 文教会館 館長 小浦 寛

～漆との出会い～



館長 山中漆器木地師になろうと思ったきっかけを教えてください。
山田 初めに漆との出会いがありました。大聖寺実

業高校に入学し、デザイン科の授業で初めて漆に触れました。漆に出会ったことが木地師の道に進んだ大きなきっかけだと思います。

館長 運命の出会いでしたね。

山田 そうですね。辺りに漆器職人がいたり、漆器団地があったりと、漆は身近なものでした。しかし、はじめて漆に触ったのは、高校の授業です。漆に触れ作品を作ったとき、はじめて自分でものを作る楽しさを感じました。

館長 漆の魅力を教えてください。

山田 最初は漆に全身かぶれました。漆が変化していく様子を見て、生き物みたいだなと思いました。自然の魅力を感じました。かぶれたりすることも不思議だし、漆が乾燥していく工程に凄く興味が湧きました。漆が湿気によって、色や艶に違いがでることに驚きました。漆を塗ることで木目が引き立ち、漆をかけてはじめて出てくる模様もあり、漆の魅力に取り憑かれました。さらに、漆の勉強するために高岡短期大学の漆科に進みました。短大で、作品を最初から最後まで自分で作ることを体験し、そこで勉強していくうちに、土台も自分で作ればと思い木地師の技術を身に付けたいと思いました。

～木地師として～

館長 高岡短期大学時に木地師になりたいと思ったのですか。短大卒業後、どうされたのですか。

山田 短大卒業後、ろくろで削る勉強をするために地元のろくろの研修所に入学しました。研修所に入学するときに基礎コースの人数が多く、地元であるということから専門コースに入ることになりました。短大時代には、ろくろを全く触ったことがなかったので、研修所への入学前にろくろ削りを学ぶために地元の工

芸士佐竹一夫先生のもとへ通いました。そこで、削ることの難しさを知りました。研修所に入学してからも佐竹先生のところに通い続け、佐竹先生から多くのことを学びました。陶芸のろくろは上から形を整えますが、木工のろくろは横向きで、かなり仕上がりが薄くなります。ミリ単位にもなることがあります。物によって厚みは様々で最後に漆を塗ることによって仕上がりが変わってきます。

館長 研修時代に学んだ機械的なろくろの技術は、木地師として貴重な経験ですね。研修時代の辛かったこと、支えになったものを教えてください。

山田 そのころは基礎知識もなく必死だったので、とにかくやりたいという気持ちだけで頑張ってきたと思います。作業の一つ一つが楽しく感じられました。常に新しいことに夢中で取り組めることが良かったと思います。ひとつひとつ、目の前にあるものをこなしていくことが精一杯ではありましたが楽しかったです。当時は遙か遠いものを見るのではなく、目の前の作業をこなすことが凄く楽しく感じられました。男社会ではありましたが、先入観なくこの世界に入ったので、大変なことも自然に乗り越えられたと思います。

館長 山田さんは山中漆器の全工程を手がけているようですが、木地師の役割について教えてください。

山田 漆器を仕上げるには、いくつかの工程があり、分業で細かく分けられています。木地師の仕事は、その中の最初の工程を受け持つことになり



ます。木を削り、形を造り出す仕事です。山中漆器は木地の美しさが大切ですので重要な仕事です。大切なのは木を完全に乾燥させるということです。木を乾燥させるにはすごく時間がかかります。削り出す工程で、ゆがみがでてきたらそのゆがみを取るために少しずつ削っていく「粗挽き」という工程を何度も繰り返します。ある程度お椀の形に近づけた状態で完璧に乾燥までさせ、そこから初めて形にさせていくこととなります。同じ木に見えても、それぞれ木の堅さが違ったり、ゆがみ方も違ったりするので削るときには、木の性格を良く理解し削っています。

館長 たくさん経験を積むことが大切ですね。

山田 はい、そうです。そして、木地師として削る道具が要となってきます。ですから、削る道具は自分で作っています。鍛冶屋仕事です。刃物の元となる鉄鋼の棒から刃を打ち出し、刃物を作っていきます。学校と佐竹先生に教わりました。

館長 一つの作品を仕上げるのにどれくらいの時間がかかりますか。製作期間と作品数を教えてください。

山田 山中職人さんは注文によって何百と注文があって一気に作ったり、一点ものを作ったりしています。私の場合は、自分でデザインして作るの、どちらかというと大量生産ではなく、数十個単位で作ることが多いです。乾燥した状態の木が手元があれば、一つのお椀を作るのに30分ぐらいで仕上げます。



館長 作品ができあがった時は達成感でいっぱいですね。

山田 少しずつではありますが技術が身についているなどと思っています。私の師匠は日常的な茶わんやお皿

を作る職人で、私もひたすら日常的に使う、身近なものを製作していました。そんな時、師匠が伝統工芸の作品展に出品しないかと声をかけてくださり、その時はじめて作品的なものを、図面から作り、入選したときには凄く嬉しかったことを覚えています。

館長 今後、作品展に出品する予定はありますか。

山田 作品展に出品する予定はありません。今は、自分の作ったものを見てもらう個展を開催しています。

館長 どのようなものを展示するのですか。

山田 今、私が工芸士として一番製作したいものは、身近な普段使いのものです。普段使いの作品の展示が多いです。もちろん一品ものもあります。

館長 女性の木地師は少ないと聞いていますが、現在はどうでしょうか。

山田 私が在学していた頃、女性は数人でした。今では卒業生もたくさんいます。山中漆器の歴史が400年近くあるなかで、当時、木地師として独立した人はいませんでした。女性ではじめて、木地師として地元に残り独立しました。

館長 独立するのに何年間かかりましたか。

山田 研修所に通いながら2年間と卒業してから3年間佐竹先生のところで勉強しましたので5年かかりました。

～普段使いの身近なものを～

館長 どのような気持ちでものづくりに取り組んでいますか。

山田 お手紙で感想をいただいたことがあって、「毎日使ってます」「使いやすいです」と書かれていて凄く嬉しく感じました。実際に毎日使えるもので心地良いもの、長く使える物を意識して作っています。欠け

たりしたら修理もできますので山中漆器は長く使うことができます。

館長 山中漆器の伝統工芸士としての想いを聞かせて下さい。

山田 伝統工芸士としての思いがあって始めたことではなく、作品を作りたいという思いから始めたことです。伝統を受け継ぐといった大それた思いは全くありませんでした。職人として、ただ作りたいものを作ってきたのですが、何年か前に、伝統工芸士の資格をもらって最近になってから少しずつ自覚が出てきたかなと思っています。しっかり伝えていかなければならないと思っています。

館長 ものづくりは大切なことで、もっと多くの人に山中漆器のことを知ってもらえればよいと思うのですが、今後の活動について教えてください。

山田 一般の方に向け実演体験の手伝いをしたり、地元の小学生がろくろ研修所にきて体験製作するのを手伝っています。まず、山中漆器について知ってもらうことが大切だと思います。私自身も子どもの頃、漆器の産地ということぐらいは分かっていましたが、どんな風に作られているかなど知らないことが沢山あり、特に、木地について知識はありませんでした。今後、地元の子供もたちに山中漆器を知ってもらえるような活動ができればと思っています。

～木の魅力を活かした作品づくり～

館長 最後に、今後の新しい作品づくりの抱負を教えてください。

山田 工芸士として一番製作したいものは、普段使いの作品です。身近な普段使いをつくるなかで、こんな物あったら良いなとひらめいたものを作っていきたいと思っています。例えば洋食の食器などです。

また、木のゆがみ、動きをそのまま使った作品づくりに取り組んでいます。乾燥させた木を削るのではなく、伐採したままの水を含んだ木そのもので仕上げまで削ってしまい、その後のゆがみ、動きをそのまま活かした作品づくりに取り組んでいます。木の魅力を活かした作品づくりです。長く愛用していただければと思います。



事業報告

第32回 いしかわ県民陶芸展

期間：令和2年1月18日(土)～1月26日(日)

今年も、県内の陶芸愛好家の皆様から数多くの力作が寄せられ、一般67点、青少年119点、招待作品2点の合計188点にのぼり、出品者も5歳から91歳と幅広い年齢層にわたりました。

審査員の先生からは、「作品とは、自分の表現であり、心に宿っている見えない思いこそが作品です。皆さんの作品を見てみると、様々な思いを感じることができます。」との感想をいただきました。

会期中1千名近くの方々にご鑑賞いただくことができ、盛況のうちに幕を閉じました。ご出品いただいた皆様、ご来場いただいた皆様、運営を支えてくださいました皆様方、誠にありがとうございました。

いしかわ県民陶芸大賞

★石川県教育委員会賞 2点

● 赤獅子 黒獅子



能登 邦男 (加賀市)

審査員寸評

二頭の獅子の会話が聞こえてきそうです。会話は昭和、平成、令和へと。特に赤い獅子の力強い表現が最高の作品です。

● 民族紋様つぼ

岡島喜久子 (一般・金沢市)

審査員寸評

縄文土器・形・成形・焼成・文様全ての技術は最高です。見ていると息が止まるくらいの出来栄です。



● 命の湖にあった骨

白藤 拓武

(青少年・七尾特別支援学校)

審査員寸評

色がなくても色を感じさせる作品です。作者の心の中に宿っている夢を想像させる作品です。



★文教会館理事長賞 10点

【一般】

- 花入れ 飯田 七郎
- 雫 野川志麻子
- 深緑 高木 勇
- 日常 盛本 立子
- 春を待つ 林 令子

【青少年】

- 鉛傘 都原 美優
- ひょうたん 田中 颯樹
- パズル鍋置き「喜怒哀楽」 大浦 愛佳
- 九谷色絵陶板「天道虫」 渋谷 星
- 夜空 西出太斗 出倉幸奈 原田尚季 谷口珠梨 中下隼斗 山本柊芽



審査会の様子

「いしかわ教育ウィーク」関連行事

期間：11月1日(金)～7日(木)

文教所蔵第189回教育資料ロビー展

オリンピック・パラリンピックへの思い ～ふるさと石川より～



2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会で日本人選手の活躍が期待される中、当財団に寄贈された刊行物の中から、石川県が輩出した大島謙吉氏、広橋百合子氏（1932年ロサンゼルスオリンピック出場）を初めとする76名の選手に関する書物や写真、物を展示いたしました。

教育史セミナー 「学習指導要領が変わる中、今、子どもたちに求められる力」 11月6日(水)

講師：石川県文教会館 館長 小浦 寛

- 【感想】
- ・学校における課題研究の取組を分かりやすく説明され、「探究力」を身につける事の重要性を理解することが出来ました。また、多くの教育関係書物を紹介していただき読書することの大切さを再確認することができました。
 - ・今日までの自分の考えが整理された思いで「同感だな」と思うことばかりでとても有意義でした。



事業紹介

教育資料収集整理事業 文教会館教育資料ロビー展のご案内

当財団では、教科書や教育物具・教育文献等の県内の貴重な教育資料の収集保管に努めています。その一環として、当館の1階ロビーでは、年間を通して、収集資料や県立学校等の特色ある教育活動を紹介しています。

令和2年度は、19回のロビー展（県立学校等54校の出展）を予定しています。当館のロビー展が県民の皆様にとって、教育に対する関心と理解を深める機会となれば、幸いです。

いつでもお気軽にお立ち寄りください。

令和2年度 教育資料ロビー展（予定）

場所：文教会館1階ロビー 入場無料

No.	期 間	展 示 名	内 容
196	4月	文教会館収蔵資料公開展	令和元年度の収集資料
197	4月	学校の一年をふり返る	令和元年度の県立学校等の刊行物(学校新聞・生徒会誌等)
5月～3月 特色ある学校の活動 (54校予定)			
198	5/9(土)～20(木)	県立羽咋工業高等学校 県立田鶴浜高等学校	学校活動紹介 看護師・介護福祉士への道
199	5/26(火)～6/8(月)	県立工業高等学校	学校紹介
		県立宝達高等学校	学校紹介
200	6/12(金)～23(火)	県立七尾特別支援学校 珠洲分校	学校紹介
		県立金沢泉丘高等学校	課題研究紹介
		県立羽咋高等学校	羽咋高校紹介
201	7/1(水)～13(月)	金沢市立工業高等学校	工業科紹介
		県立小松高等学校	SSH・NSH課題研究紹介
202	7/18(土)～29(水)	県立金沢二水高等学校	金沢二水高校の教育活動
		県立金沢辰巳丘高等学校	大きな明日へ
		県立鶴来高等学校	学校紹介
		県立金沢西高等学校	金沢西高校の紹介
203	8/1(土)～12(木)	県立羽松高等学校	羽松高校紹介
		小松市立高等学校	学校活動の紹介
		県立金沢錦丘高等学校	中高連携を生かした教育活動
		県立門前高等学校	門前高校の取り組み
		県立七尾特別支援学校	学校紹介と作品展示
204	8/18(火)～31(月)	県立金沢錦丘中学校	中高連携を生かした教育活動
		県立七尾城北高等学校	七尾城北高校紹介
		県立錦城特別支援学校	錦城特別支援学校 作品展示
		県立盲学校	盲学校の紹介
205	9/3(木)～14(月)	県立医王特別支援学校	学校紹介
		県立野々市明倫高等学校	学校紹介
		県立金沢伏見高等学校	学校紹介
206	9/18(金)～29(火)	県立いしかわ特別支援学校	夢と可能性に挑戦!
		県立加賀高等学校	加賀高校紹介
		県立七尾東雲高等学校	七尾東雲高校の紹介
		金沢龍谷高等学校	金沢龍谷から世界～グローバル・マインドを育む～
207	10/7(水)～18(日)	県立大聖寺高等学校	大聖寺高校紹介
		県立翠星高等学校	(食と農と環境) 翠星高校の学び
		県立志賀高等学校	学校紹介
		県立鹿西高等学校	鹿高生の活動
208	11/1(日)～7(土)	「いしかわ教育ウィーク」関連行事	
209	11/12(木)～23(月)	県立内灘高等学校	学校紹介
		県立輪島高等学校	学校紹介
		県立飯田高等学校	学校紹介と作品紹介
		県立ろう学校	学校紹介
210	11/27(金)～12/8(火)	県立加賀聖城高等学校	錦城山プロジェクトのとりくみ
		県立金沢向陽高等学校	学校紹介
		県立七尾高等学校	SSH・NSHの活動について
211	12/12(土)～23(木)	県立能登高等学校	学校紹介・生徒作品
		県立小松商業高等学校	学校の概要(取り組み)
		県立金沢桜丘高等学校	金沢桜丘高校学校紹介
		県立金沢北稜高等学校	金沢北稜高等学校紹介
212	1月	明和特別支援学校	明和特別支援学校の紹介
		いしかわ県民陶芸展	
213	2/3(水)～14(日)	県立小松工業高等学校	小工の活動状況
		県立小松明峰高等学校	小松明峰高校学校紹介
		県立寺井高等学校	学校紹介と作品展示
		県立津幡高等学校	学校生活・部活動の紹介
		県立大聖寺実業高等学校	地域と連携した教育活動
214	2/17(水)～28(日)	県立小松特別支援学校	学校紹介と作品展示
		県立小松瀬領特別支援学校	小松瀬領特別支援学校の紹介
		県立松任高等学校	学校紹介
214	3/4(木)～15(月)	県立金沢商業高等学校	学校紹介および金商デパートの歩み
		令和2年度文教会館のあゆみ	

ロビー展の様子



石川県立田鶴浜高等学校



石川県立小松高等学校



金沢市立工業高等学校



石川県立金沢向陽高等学校



石川県立小松商業高等学校



石川県立羽咋高等学校

★これまでのロビー展の様子は当館ホームページからご覧いただけます。

教育資料ロビー展

検索

令和2年度 文教国際理解講座のご案内

～ネイティブスピーカーによる異文化理解講座です～

講座	内容	曜日	講座時間 (100分)
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木	10:00～11:40 18:30～20:10
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように (英検準2級程度)	火 水 水 木	18:30～20:10 10:00～11:40 18:30～20:10 10:00～11:40
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように (英検2級程度)	火 水 木	10:00～11:40 10:00～11:40 18:30～20:10
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように (英検準1級程度)	火	18:30～20:10
韓国文化 初級	ハングルや韓国文化に親しむ	水	18:30～20:10
中国文化 初級	中国語(標準語)や中国文化に親しむ	水	19:00～20:40

実施期間：令和2年5月～
令和3年3月上旬
対象：教職員・一般・高校生
定員：1講座20名程度
受講料：年額36,000円(年35回)
(教材は実費負担)
応募期間：2020年3月10日(火)
～4月10日(金)



申込方法：文教会館までお問い合わせください。

※当館のホームページから申込書をダウンロードできます。

※応募期間が過ぎても定員に空きのある講座には途中入会ができます。

文教国際理解講座

検索

外国の言葉や文化を学ぶ楽しいひとときをぜひお楽しみ下さい。

令和2年度 文教アートウェイブのご案内

～演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください～

文文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費を無料でホールをお貸ししています(照明設備費等有料)。公演ご希望の方は文教会館事業課までお問い合わせの上、お申し込みください。



皆様、お問い合わせの上、ぜひご来場ください。

<今後の公演予定>

※公演の日時等は変更になる場合がございます。

石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部 第7回定期演奏会 ◆入場無料	令和2年3月22日(日) 14:00～(開場13:30)
石川県立金沢泉丘高等学校合唱部 第11回定期演奏会 ◆入場料：500円	令和2年3月28日(土) 14:00～(開場13:30)
石川県立金沢辰巳丘高等学校合唱部 第4回演奏会 ◆入場料：700円	令和2年3月29日(日) 15:00～(開場14:30)
高橋英子バレエスタジオ第20回発表会 ◆入場無料	令和2年5月24日(日) 14:00～(開場13:30)
金沢高等学校吹奏楽部 サマーコンサート ◆入場無料	令和2年7月18日(土) 14:00～(開場13:30)
金沢市立小將町中学校吹奏楽部 第9回定期演奏会 ◆入場無料	令和2年7月31日(金) 14:00～(開場13:30)

令和3年度のアートウェイブ公演の募集期間は
令和2年5月1日(金)より9月30日(水)まで。お待ちしております！

★応募や公演予定の詳細は、当館ホームページからご覧になれます。公演申込書もダウンロードできます。

令和2年度 「教育文化研究会」募集のご案内

※参加ご希望の方は、文教会館事業課までお問い合わせください

	研究会名	定員	年会費	内容	日時
I	もっと知りたいアジア	10名	3,000円 全6回	アジア文化圏の地理、歴史、時事問題に関心を寄せ、ときにはビーズやアジア料理なども楽しむ。	奇数月第2土曜日 14:00～16:00
II	源氏物語を楽しむ	10名	11,000円 全22回	『源氏物語』の原文をはじめ、さまざまな文献にあたり古典の奥深さを味わう	第3・4土曜日 10:00～12:00
III	茶道入門教室	10名	11,000円 全22回	初心者のための茶道入門。お茶のいただき方、簡単なお点前、作法を1年間で学ぶ(流派：表千家)	第1・3月曜日 12:00～16:00
IV	近世芸能研究会	15名	11,000円 全22回	漢詩・短歌・俳句をとおして詩吟を探求する	第1・3木曜日 18:00～19:00

※文教国際理解講座・文教アートウェイブ・教育文化研究会は、「いしかわ県民大学校」の連携講座です。